

2 0 1 9 年 度

第 1 回

入 学 試 験 問 題

国 語

試験時間 50分

注 意

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 問題は□から□の13ページにわたって印刷してあります。足りないページや、印刷が不鮮明な箇所があった場合は、手をあげて監督者に申し出てください。
- 問題冊子と解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 特に指示の無いかぎり、句読点や記号は1字で数えます。
- 問題の内容に関する質問は受け付けません。
- 試験終了後、監督者の指示に従い問題冊子と解答用紙を提出してください。

佼成学園女子高等学校

受験
番号

□ 次 の 文 章 を 読 み、後 の 問 い に 答 え な さ い。

中学一年生の夏澄（カスミ）は、夏休みの合宿中に、旅行中に宿泊したホテルの火事で他の家族が全員亡くなったという知らせを聞く。家には三十歳でありながら働いていない叔父のテツハルと自分だけが残され、二人での生活が始まった。

もう少しで学校、というところで、後ろから肩を叩かれた。友だちの美紗だった。半分笑ったような困ったような顔で「オハヨ」と挨拶を寄せよす。それに答える間もなく、美紗の大きな瞳にみるみる涙が盛り上がってきた。

「夏澄、ちょっと痩せた？ ちゃんとご飯食べてる？ 夜はちゃんと寝てる？」

私はにっこり笑って言う。

「大丈夫。ちゃんと食べてるし、寝てるよ」

まったく本当のことだ。なのになぜか、嘘をついているような、空気を装っているような、^①妙にいたたまれない気にさせられる。

何だか、学校中がそんな感じだった。

始業式の後で滝田先生に挨拶に行ったら、いきなり「今日はミーティングだから大丈夫」と言われた。何が「大丈夫」なんだかわからな
いまま「はあ」とうなずくと、先生は両手で私の手を包み込み、ぐっと力を込めた。

「あんなことがあったんだ、すぐに部活なんて気になれないことはわかってるよ。大丈夫、君が落ち着くまで、どんなに時間がかかっても、待っているよ。先生も、部のみんなも」

私はまた「はあ」とうなずいた。

どうやら「1」と言われたらしいので、そのまま家に帰ることにした。

喉がカラカラだったので、とにかく麦茶を飲もうとキッチンに向かったら、そこは惨憺たる有様だった。

調理台の上には、ホットケーキミックスの大箱と牛乳とバターが出しっぱなしになっている。一番大きいボウルの中には、ゆるくとかれたホットケーキのタネが、べっとりとへばりついている。そこら中が、その薄黄色い液体と粉と割り損ねた卵とで、とんでもなく汚れている。何をどうやったのか、その汚れは床の上や冷蔵庫のドアや壁にまで及んでいる。

キッチンから続く居間に、叔父さんが寝そべっているのが見えた。つけっぱなしのテレビの声に混じり、気持ちよさそうないびきの音まで聞こえる。

フライパンの上に、真っ黒焦げのホットケーキが半分、載っていた。たぶん叔父さんが昼ご飯を作って食べた、その痕跡だろう。残っているのは、たぶん、私の分のつもり、なのだろう。

もう一度、叔父さんの方を見やった。本当に幸せそうに眠っていた。慣れない早起きなんてするからさ、持たなかったんだね、きつと。口の周りにホットケーキの屑と牛乳の跡をこびりつかせて、子供みたいに深く眠り続けている。何ひとつ悩みなんてなさそう、その太平樂な顔を見たとき、私の中で何かがぶちりと音を立ててちぎれた。

つかつかと歩み寄り、叔父さんが枕にしていたクッションを思い切り引き抜く。叔父さんの後頭部がゴトリと床に当たった。

「^②起きなさいよ」

いびきが「ズコッ」と音を立ててとまり、叔父さんがぱちくりと目を覚ました。「え、何、どうしたの」とかなんとか、間拔けな声で言っている。ムカッとした。

「どうしたのじゃないよ、何が早起きよ。昼間寝てるんじゃないじゃん。しかもテレビつけっぱなしでさ。それにそのクッション、枕にしないでいつも言ってたでしょ。お母さんのお気に入りだったのに、叔父さん頭洗ってないでしょ、汚いじゃん、止めてよ。もしかして嫌がらせ？ それにあの台所、何よ、あれ。誰が掃除するのよ、何でもホットケーキなのよ、何でもあそこまで汚れるわけ？ 何でイキナリ料理とか、始めるわけ？ 全然、できないくせに……何でイキナリ早起きとかするわけ？ 何でイキナリ私の朝ご飯とか作ろうとするわけ？ 何で……」

一気にわーっと叫ぶうち、なぜかぼろぼろ涙がこぼれてきた。腹が立って、腹が立って、仕方がなかった。

「何にもできないくせに、何がお母さんよ、馬鹿じゃないの。ダメ男のくせに、プーでニートで寄生虫のくせに。テツハルなんて名前、もったいないよ。クステツで充分」

自分でもひどいことを言っているなど、わかっていた。でも止まらなかった。全部本当のことだ、とも思った。

叔父さんはやっぱり眼をぱちくりさせながら、いつの間にか私の目の前に足をそろえて坐り、黙って私の悪口雑言を聞いていた。

やがて悪口の種も尽きると、肩で息をする私に静かに尋ねた。

「カスミは、オレのこと、嫌い？」

「……嫌いだよ」

ぼそりと返す。叔父さんはちょっと寂しそうに笑った。

65

60

55

50

45

「秋美さんにも、やっぱり嫌われていたんだろうなあ……」
何でここでお母さんが出てくるのかわからない。私は**つつけんどん**に言った。

「当然でしょ」

叔父さんは傍らからティッシュの箱を引き寄せて、私に差し出した。「そら、顔ふけ。ぐしょぐしょだぞ」

私は黙って数枚引き抜き、派手な音を立てて涙をかむ。

「……初めて、泣いたな」

叔父さんの言葉に、私は顔を上げた。

「ずっとさあ、オレばっか泣いてて、オマエ、泣いてなかったじゃん」
「……私は、強いから。泣いたら、負けだから」しばらくしてから、ぼそりとつぶやく。叔父さんは一瞬、泣き笑いのような表情を浮かべた。

「兄貴がよくそんなこと、言ってたっけな。でもさ、じゃ、オマエ、今、何かに負けたわけ？」

負けたかもしれない、と思う。でもくやしいから黙っていた。叔父さんは不服そうに言った。

「カスミってさあ、ホント人前じゃ絶対泣かないよな、子供のくせに」
そう言ってるご本人が、口を尖らせて子供のようだ。

「何よ、そっちこそ、大人のくせにメソメソテレビでまで泣いてんじゃないよ」

「どうせオレは負け犬だしー」

「自分で認めないでよ、情けない」

「でもさー」と叔父さんは言う。この人の語尾を引っ張るしゃべり方って、ホント、甘ったれに聞こえてイライラする。そう思っていると、叔父さんはもう一回「でもさー」とくりかえしてから続けた。「そんなに

90

85

80

75

70

負けるのは悪いことかなあ……だって負けるやつがいなきゃ、勝つやつもないだろ」

泣けばいいじゃん、とお気楽な顔で言ってくれる。

「……みんな、私が泣かないのはヘンだって思ってる」私の喉から、くぐもった声が漏れた。「毎日毎日泣き暮らすべきだって思ってる。しわしわに干からびるまで泣くべきだって思ってる」

「そんなことは思っていないでしょ」

びっくりしたように、叔父さんは言う。

「思ってるよ」床を踏みならして、叫んでしまった。「私は何も変わらない。変わったのはみんなの見る眼の方だよ。あんなことがあったんだから、私が変わるべきだって思ってる。変わらなきゃおかしいって思ってる。どうして前と同じでいちゃ、いけないの？」

言っているうちに、いったんは落ち着いた感情がまた高ぶってきて、わっと泣いてしまった。

叔父さんは傍らで、オロオロしている。

意外なことに、泣くのは結構気持ちよかった。叔父さんをオロオロさせるのも、結構楽しかった。

そして、ひとつわかったことがあった。

私は、変えないことで護ろうとしていたのだ。とてもとても大切な何かを。

ここで前と同じように生活していたら、みんながひょっこり帰ってくるような気さえしていたのかもしれない。たくさんのお土産を抱えて、「やっぱり我が家はいいなあ」なんて言いながら。

もちろんそんなこと、あり得ないってわかっているけど。

「泣くなよ、な、カスミ。カスミちゃん」

95

「何よ、泣けつつつたの、叔父さんじゃないの」

「そうは言っていない」

「言ったよ」

「そうとは言っていない」

「言ったってば」

「いつ言ったよー、何年何月何日何時何分何秒に言った？ 言ってみるよー、え？」

思わずぷつと吹き出していた。

まるで小学生みたいな言い種だ。いい歳したおっさんが、真面目な顔しちゃってさ。

やっぱり叔父さんは前と変わらず馬鹿でダメで……でも、だから、ちよつとだけ、安心する。こういうとき、大人らしくて格好いいことを言わないことに、少しだけ、ほつとする。

前と変わらぬダメ男の叔父さんは、私が吹き出したことにも気づかず、オタオタと焦りながら言った。

「泣くのは、ホラ、腹が減ったからなんだよ。叔父さんのホットケーキ、食え。ホラ、食え」

「焦げてるし。冷めてるし」

「あつためてやるからさ」

「ますます焦げるよ。いいよ、あつためるのは自分でやるから、さ。叔父さんは……」

③ ここで声にぐつと凄みをきかせた。「台所、片してよ。何あれ、どうやったらあんなに散らかるわけ？ 食べたお皿も出しっぱなしじゃん」

叔父さんはさも嫌そうに顔をしかめながら、皿を持って立ち上がった。

115

110

105

100

120

125

130

135

140

「あーあ、今、やろうと思ってたところのになあ。せっかく昼ご飯作って待っててやったのになあ。やる気無くしちゃうよなあ、まったく」

またしても子供っぽいことをぶちぶち言いながら、歩き出す。と、床に置きっぱなしだった漫画雑誌に足を取られ（もちろん叔父さんが放置したものだ）、重ねたコップをゴトリと落としてしまった。カーペットだったから割れはしなかったけど、少しだけ残っていた牛乳があたりに飛び散ってしまった。

「ホントにダメな叔父さんなんだから」

私は大げさにため息をつきつつ台所へ行き、濡らした古タオルをぽいと投げてやった。

「ちゃんときれいになるまで、トントンしてね」

叔父さんはふて腐れたように「ふえーい」と変な返事をする。

まったくもうとつぶやきながら、取り敢えず、叔父さんが出しっぱなしにしていたバターと牛乳を冷蔵庫にしまった。仕方がないから焦げたホットケーキも食べてやるかと、コンロに火を点ける。捨てるのもつたいないし。炭化した部分をむしってしまえばなんとか食べられるだろう。まったくもう、ホントに、めんどくさいけど。

ふわりとバターの香りが立ち上る。叔父さんは、何やらぶちぶち言いながら、カーペットの汚れを濡れタオルでゴシゴシやっている。「トントンしてね」って言ったのに。アレじゃ汚れを伸ばしてるだけだよ。

そしてまた、何度見返しても台所は凄まじい有様だ。

ホントーに馬鹿でダメな叔父さんだよ。

フライパンがあったまるのを待ちながら、なぜだか少し、笑えてしまった。

（加納朋子「マイ・フリーリッシュ・アンクル」）

145

150

155

160

165

問一 二重傍線部 a 「太平楽」、b 「つつけんどん」の本文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a ア のんきにしているさま

イ 心の底から楽しむさま

ウ 神経をとがらせているさま

b ア 怒りを込めた攻撃的なさま

イ とげとげしく愛想が無いさま

ウ 間隔を空けずすぐに答えるさま

問二 本文中の空欄 1 に入れるのに最も適当な言葉を次の中から

ら選び、記号で答えなさい。

ア 今日休みだ

イ 部活もがんばれ

ウ 来なくていい

エ いったん家に帰れ

問三 傍線部①「妙にいたたまれない気にさせられる」とありますが、

このときの「カスミ」の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 相手の言葉が押しつけがましく、嫌悪感を抱いている。

イ 相手の言葉に含まれた悪意に気づき、嫌悪感を持っている。

ウ 自分と周囲との感じ方のズレを察し、その場にしばらく感じている。

エ 自分の思いに嘘をつくことしかできず、その場にいつらくなっている。

問四 傍線部②「起きなさいよ」とありますが、この言葉にこめられた感情として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 呆れ イ 怒り ウ 焦り エ いらだち

問五 傍線部③「ここで声にくつと凄みをきかせた」とありますが、この行動からわかる「カスミ」の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 無理に焦げたホットケーキを食べさせようとする叔父に対し、話をこまかそうとした。
- イ 自分の気持ちを理解してくれず、勝手な言動をとる叔父に対してあきれ果ててしまった。
- ウ これまでと変わらない叔父を見て、家族を亡くして無理をしていた自分の心に余裕が生まれた。
- エ 自分を認めてくれる叔父に深い信頼感を抱くが、その気持ちが恥ずかしく話題をそらそうとした。

問六 本文の表現の特徴を説明した次の文を読み、適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 擬態語が多用されているため、読者はわかりやすくその場面を思い描くことができる。
- イ 会話文中にカタカナが用いられ、それが実際の会話に近い話し言葉であることを意識させている。
- ウ 心情を直接表現する言葉を使わないことによって、より深い悲しみを表現することに成功している。
- エ 二人の会話がテンポ良く交互に繰り返されることで、まるでその場にいるかのような臨場感を出している。

問七 この物語を読んだ後に、夏目さんと樋口さんが話し合いました。

次の二人のやりとりを読み、空欄（１）には本文中より十字以内で適切な言葉を抜き出さない。また、本文の内容を踏まえ、（２）に当てはまる言葉として最も適当なものを後の選択肢から選び、記号で答えなさい。

夏目さん この物語は、「涙」というものに、深い意味が込められているように感じたんだけど……。

樋口さん 主人公のカスミは、涙を流すことについて「（１）」と言っているよね。こんなふうに考えるようになったのはどうしてだろう。

夏目さん どうやらカスミのお父さんがよく言っていた言葉のようね。

樋口さん だからこんなことを考えてたのね……。そうすると、カスミが涙を流す場面は結構重要なんじゃないかなあ。

夏目さん そうよね。ずっと自分では元気だと思っていたけど、叔父さんの行動で、とうとう抑えきれなくなったのがこのときだったんだね。

樋口さん カスミはもう一度泣いているよね。どんな変化があったのかなあ。

夏目さん きつと、（ 2 ）。

（２）の選択肢

ア 他の人には気丈に振る舞っていたけど、叔父さんの前で涙を流すことで自分の本心に気付けたのかな。

イ 家族が死んでからずっと悲しみにくれていたけど、先生や友達や叔父さんの気づかいがわかって涙を流したのかな。

ウ これまで家族の死を受け止められなかったけど、叔父さんの振る舞いに涙を流すほど怒ったことで自分の悩みがばかしくなったのかな。

エ 家族が亡くなった直後は現実を受け止められずに涙を流すこともできなかったけど、時間が経つにつれて現実と向き合うことができるようになったのかな。

二

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

死者はモノなのか？

「街の復興はとても大切な事です。でも沢山の人の命が今もここに
ある事を忘れないでほしい。死んだら終わりですか？」(写真1)と、
宮城県名取市の閑上^{ゆりあげ}で子供を亡くした母親が、彼らが学校で実際に使っ
ていた机に言葉を刻みつけている。私たちはこの A 的な質問に対
して、どのように答えることができるだろう。もちろん素朴にイエスと
肯定することもできる。死ねば骨は単なるリン酸カルシウムのかたまり
である。物言わぬ死者をあちらの世界に放り投げてしまうこともでき
だろう。

岩明均の漫画『寄生獣』に、次のような B 的なシーンがある。

人間に寄生した異生物の影響で、半ば人間の心を失った主人公は、子犬
が亡くなるまで温かく抱擁していたが、子犬が生物学的な死を迎える
と、まるでもののように子犬をつまんでゴミ箱に捨ててしまう。それに
対して主人公に恋心を抱いていた女性^aが、怪訝な表情を見せたので、変
だなと思った主人公は「清掃の人がこまるかな？」と答えて、女性が興
醒め^さしてしまう場面である。すると彼は「もう死んだんだよ……死んだ
イヌはイヌじゃない イヌの形をした肉だ」と言い放つ。つまり、この
シーンは^②逆説的に人間が人間として存立する基盤を提示しているので
ある。物質論で行けば亡くなれば終わりで、モノになんらの特別な感情
を抱く必要性も必然性も本来的にはない。

しかし、人間である以上、死者をモノのようにゴミ箱に遺棄するの
ではなく、尊厳ある死を志向すべきである。冒頭の母親の問いかけは、死
者が復興の過程のなかで置き去りにされている現状に対して、そう警告

を発している言葉ともいえるだろう。

本来災害は、それまで普段あまり意識することもなかった死に対して
振り返る機会を与えてくれるはずである。ただし、
者忌避論が優勢を占めているので、死者そのものが O^bブラートに包ま
れ、^{おびただ}夥しい災害死がその場にありながら、私たちの目に触れることはほ
んど皆無である。そのことが忘却の彼方へと死者を追いやっている、
そういう状況がある。そして死者の数だけが問題になることについて、
哲学者の中島義道は、^③死は他人が代替不可能な「その人だけの死」で
あるにもかかわらず、それぞれの死者に視点を合わせていないというこ
とを指摘している(中島二〇一四)。

その要因としては、死者への忌避やプライバシーの問題など、さまざ
まに挙げられるだろう。いずれにしても死者はマスキングされて、一般
の人びとが気づかないように巧妙に操作されている。

それに対して、私たちは、合同調査(フィールドワーク)のなかで死
者の問題(震災遺構や遺体の掘り起こし、消防団員の死など)について
正面切って論じてきた。詳細は金菱清
編『呼び覚まされる霊性の震災学』(新
曜社、以下、金菱編二〇一六と略記)
に譲りたいが、ここでは、ふたつの事
例(慰霊碑・タクシードライバーの幽
霊現象)をかいつまんで紹介したい。
そのうえで、生者でも死者でもない、
その中間領域でしか成り立たない「生
ける死者」を考える。

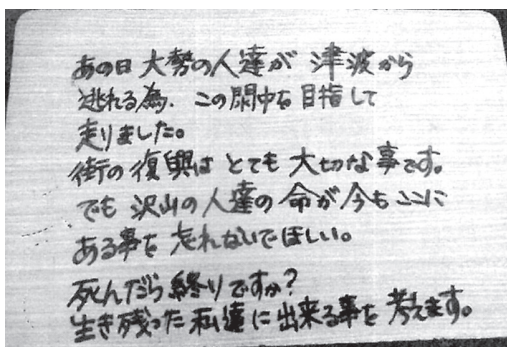


写真1 「死んだら終わりですか？」という机に書かれた
メッセージは私たちに何を語り掛けるのか (菅原優撮影)

抱きしめる慰霊碑

冒頭に挙げたご遺族が建てた慰霊碑がある。宮城県全域の慰霊碑を調べた共同調査者の菅原優は、閑上の慰霊碑の形状のみがまず斜めを向いており、他の垂直に立っている慰霊碑と異なっていることに気がついた〔生ける死者の記憶を抱く——追悼／教訓を侵犯する慰霊碑〕金菱編二〇一六所収〕。それだけでなく、「平成23年3月11日 午後2時43分 東日本大震災の津波により犠牲となった生徒の名前をここに記す」という言葉のみで誰かに宛てられたメッセージ性は碑文にはない。

阪神・淡路大震災の慰霊碑を調査した社会学者の今井信雄が分類した（今井二〇〇一）、亡くなった人に向けられた「追悼」型、これから生きる人に向けられた「教訓」型と比べると、どの型にも当てはまらない。菅原は閑上の慰霊碑を「記憶」型と別タイプの類型をつくり、子供たちは神様ではないから、拝んでもらう必要もなく、献花台も焼香台もあえて設けるようなことはしていないのだという遺族の言葉を聞き出している。距離をもつて手を合わせて拝む対象ではなく、自分たちの子供たちが生きていた証として、彼らを社会の記憶に留めおこうとする。

そして、彼はこの^④記憶型慰霊の意味について分析を進め、死者を^c彼岸に^{まつ}祀り上げるのではなく、慰霊碑を肌で触れて、まるで生身の人間に語りかけるような優しい言葉で、遺族が慰霊碑に接するときに亡くなった家族との距離をなくし、慰霊碑を抱きかかえるように両腕に抱擁していることに着目した。追悼型の過去形でも、教訓型の未来形でもなく、現在進行形で親子の記憶を疑似体験しているかのように、わが子を忘れてほしくないという願いと、今なお生きる子供たちの記憶との狭間で揺れ動く遺族の想いに形を与えたものが、記憶型の慰霊碑だと新たな位置づけを加えている（菅原、金菱編二〇一六所収）。

（金菱清^{かねびしきよし}『震災学入門——死生観からの社会構想』）

問一 本文の空欄 A 〽 C にあてはまる語をそれぞれ次の中

から選び、記号で答えなさい。同じ記号を二度選んではいけません。

ア 一般 イ 楽観 ウ 印象 エ 直接

問二 二重傍線部 a 〽 c の語句の意味として最も適当なものをそれぞれ

選び、記号で答えなさい。

a 怪訝

ア いわくありげなさま。

イ いまいましたさま。

ウ 不思議に思うさま。

b オブラートに包まれ

ア じかに刺激を受けることがないようにするさま。

イ 周りと同じように飾り立てられているさま。

ウ 重大事の記憶が徐々に忘却されてしまうさま。

c 彼岸

ア あの世。

イ まつりごと。

ウ 鎮魂。

問三 傍線部①「死んだら終わりですか?」という言葉を、筆者はどのように捉えていますか。八十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部②「逆説的に人間が人間として存立する基盤を提示している」とありますが、これはどういうことですか。最も適当な説明を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間性を半ば喪失した主人公が死んだ子犬をモノのように扱う漫画の一場面は、かえって人は死者を物質的に扱わない存在であるという人間観を如実に示しているということ。

イ 死んだ子犬をモノのように扱う主人公に対して怪しい表情を浮かべて興醒めしたという女性の反応こそが、人間が人間として生きるうえで守るべき基本的な感情を表しているということ。

ウ 死んだ犬を「イヌの形をした肉だ」と言い放った主人公は、あえて自分の考えに反してまで人として許されないことを口にすることで、人間とはどういう存在かを示そうとしたということ。

エ 人間の心を失った主人公が死んだ子犬になんらの特別な感情を抱いていない様子は、逆に主人公の深い喪失感を読み手に伝え、人間の存立基盤が何かを考えさせる効果があるということ。

問五 傍線部③「死は他人が代替不可能な『その人だけの死』であるにもかかわらず、それぞれの死者に視点を合わせていない」とありますが、こうした批判の対象となる事例として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 死者や行方不明者の数を強調し、いまだかつてない大災害であることを知らせる新聞報道。

イ 遺体安置所において遺族がどのように犠牲者と対面したか克明に記したノンフィクション。

ウ プライバシーに配慮して震災の犠牲者の個人情報は一切出さないドキュメンタリー。

エ 津波襲来の様子を撮影した映像のうち、人が亡くなる姿のないものだけを放映するニュース番組。

問六 傍線部④「記憶型慰霊」とありますが、それを示した写真として

最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア



イ



ウ



エ



問七 本文の表現や内容の特徴に関する説明として適当でないものを次

の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本文中の（中島二〇一四）とは、二〇一四年に発表された中島義

道氏の著作から引用していることを示している。

イ 筆者は文献からの引用と現場での調査を重視しており、そのこと
によって筆者の主張の客観的な説得力が増している。

ウ 写真1が示されることにより、筆者が取り上げた問題提起の切実
さや迫真性が視覚的に伝わる効果が生まれている。

エ 慰霊碑を三つの類型に分けたことにより、震災の惨禍や命の大切
さを心に刻むことの重要性が読み手に丁寧伝わる。

オ 本文の後には、おそらくタクシードライバーの幽霊現象の事例が
取り上げられ、今もそこに存在し続ける死者のありようを考察する
ことが予想される。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人は、慮^{おもはん}りなく、言ふまじきことを口とく言ひだし、¹人の短をそ

しり、したることを難じ、隠すことをあらはし、^Aはぢがましきことを

ただす。^①これらはすべてあるまじきわざなり。

言った本人は

深く考えもしないうちに

我は何となく言ひ散らして、思ひもいれぬほどに、言はるる人は思ひ

つめて、いきどほり深くなりぬれば、はからざる恥^{はじ}をも与へられ、^②身

の果つるほどの大事にも及ぶ。^③ゑみの中の剣は、^④さらでだにも恐るべ

理解していない

悪いように

きものぞかし。また、よくも心得ぬことを、あしざまに難じつれば、

かえって我が身の欠点が

かへりて身の深くあらはるるものなり。^Bおほかた、口軽^{かろ}き者になりぬ

誰それ

聞かせるな

見せるな

れば、「某^{それがし}にその事な聞かせそ。かの者にな見せそ。」など言ひて、人に

心おかれ隔てらるる、口惜^をしかるべし。また人のつつむことの、^②おの

づからあらはれぬるにも、^④かれ話されしなど疑はるる、面目なかるべ

し。

しかれば、かたがた人の上^{うへ}を慎^{つつし}み、多言をとどむべきなり。

〔十訓抄〕

問一 波線部A「はぢがましき」、B「おほかた」の読みを、それぞれ

現代かなづかいで答えなさい。

問二 二重傍線部1「人の短をそしり」、2「おのづからあらはれぬる」

の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

1 人の短をそしり

ア 人の短気を嫌がり イ 人の短気を知り

ウ 人の短所を正し エ 人の短所をけなし

2 おのづからあらはれぬる

ア 自然から生まれた イ 自然に知れた

ウ 自分から話した エ 自分に言い聞かせた

問三 傍線部①「これらはすべてあるまじきわざなり」の意味として最

も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人を甘やかすことなど決してあつてはならない行為だ

イ 人を悪く言うことなど決してあつてはならない行為だ

ウ 人の正体を暴くことなど全くもって許しがたい行為だ

エ 人の自信を砕くことなど全くもって許しがたい行為だ

問四 傍線部②「身の果つるほどの大事にも及ぶ」とは「身が破滅する

ほどの大事にもなる」という意味ですが、それはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 言われた人は思いつめて怒りが強くなってゆくので、言った人は予想もしないような屈辱を受けるから。

イ 言われた人は思いつめて嘆きが深くなってゆくので、言った人は思った通りに追い討ちをかけられるから。

ウ 言った人は軽い気持ちで言い放っているだけなので、言われた人は思ったほど傷つかずに済んでしまうから。

エ 言った人は親切なつもりで話しているだけなので、言われた人は予想に反してありがたく感じてしまうから。

問五 傍線部③「ゑみの中の剣」とは、どのようなことのたとえですか。

分かりやすく説明しなさい。

問六 傍線部④「かれ話されしなど疑はるる、面目なかるべし」の意味

として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あの人に話したなどと疑うとしたら申し訳ないだろう。

イ あの人と話したなどと疑うとしたらなさけないだろう。

ウ あの人が話したなどと疑われるのも本意でないだろう。

エ あの人と話したなどと疑われるのも面白くないだろう。

問七 本文に関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号

で答えなさい。

ア 「慮りなく」は「思慮分別なく」の意であり、人を非難する際は熟慮してからでなければならぬと助言している。

イ 「難じ」は「非難する」意であり、人を悪く言うことでむしろ自分自身の欠点がさらけ出されると忠告している。

ウ 「口軽き」は「口が軽い」意であり、そのような者だと思われると人の秘密を知るには不利になると論じている。

エ 「多言」は「おしゃべり」の意であり、目上の方の批判は慎みつつ仲間内では大いに議論すべきだと説いている。

問八 次の空欄に適当な言葉を入れ、問題文の趣旨を表すことわざを完

成させなさい。

・口は

四

各傍線部の漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 経済発展が阻害される。
- ② ひそかに恋慕の情を抱いた。
- ③ 仰々しいあいさつに驚かされる。
- ④ もはや手の施しようがない。
- ⑤ 次第に寒さが緩んできた。
- ⑥ 成功してイキ揚々と故郷に帰る。
- ⑦ 変幻ジザイの怪盗が出没する。
- ⑧ だれもが彼の清廉ケツパクを信じた。
- ⑨ 外務大臣がホクオウ諸国を訪問した。
- ⑩ エンゲキ界で頭角を現す。
- ⑪ 日ごろのストレスをハッサンする。
- ⑫ 梅雨時にジヨシツ機を使う。
- ⑬ 海の香りがタダヨウ。
- ⑭ 作戦がウラメに出て失点した。
- ⑮ 擦り傷に薬をヌる。